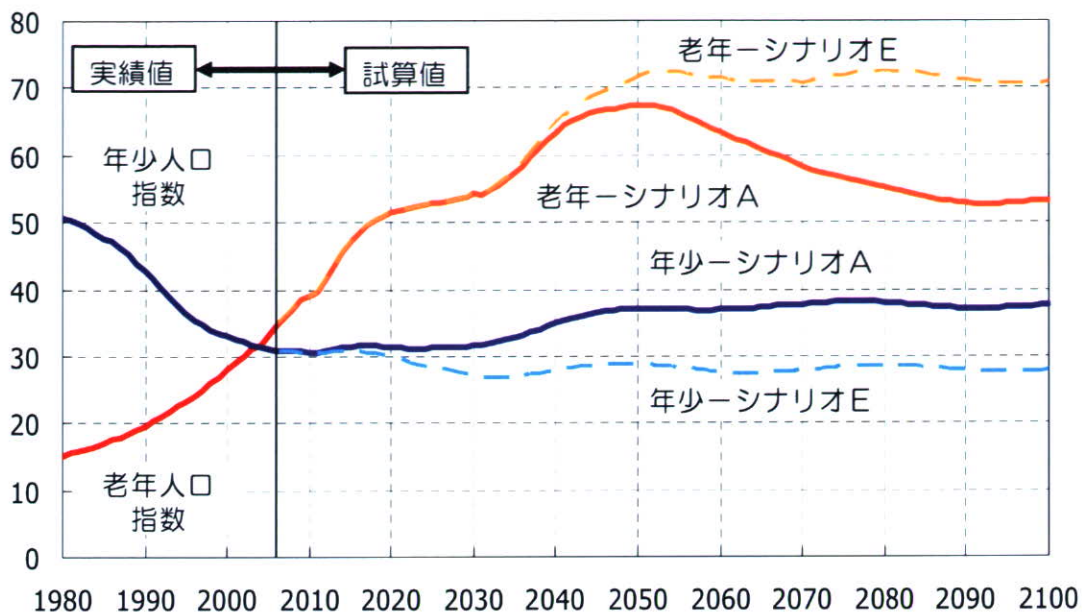


図 13. シナリオ A・Eにおける、20～64 歳人口に対する年少人口指数および
老年人口指数の推移



第3章 未婚女性の就業と予想ライフコース

仙田 幸子

1. はじめに

男女共同参画や少子化対策の観点から、近年、ワーク・ライフ・バランスに関する注目が高まっている。たとえば2007年12月18日にはワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章（案）」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針（案）」が策定された。

こうした流れの中で、既婚者を対象とした出生行動と仕事環境との関連については、比較的研究の蓄積があるが、未婚者の結婚、出生行動と仕事環境についての研究はまだそれほど行われていないように見受けられる。そこで、未婚女性が実際になりそうだと考えるライフコース(以下、予想ライフコース)がどのような要因によってどのように規定されるのかを明らかにするのが本稿の目的である。この際、とくに、ワーク・ライフ・バランスに注目する。

2. 先行研究

未婚女性のライフコース展望について、岩澤(1999)は、理想のライフコースと予想ライフコース(岩澤論文では「予定のライフコース」)を比較し、理想のライフコースが両立である場合に予想ライフコースがどのような要因によって決定されているのかを検討した。具体的には、母親が両立を経験、官公庁勤務、昇進の見込みがある、といった要因が、ライフコース上、両立を理想とし、かつ、実際にも両立を実現できそうだと考える層に特徴的な要因であった。釜野(2004)は、予想ライフコースが専業主婦であるグループは、異性の恋人がいないこと、ジェンダー役割を支持していること、結婚意志があることなどを属性として持つことを明らかにした。

3. データ

第11回出生動向基本調査の独身者調査のデータ(有効票数9407票)を分析した。このうち実際に分析に用いたのは、結婚経験のない8625票のなかの女性で、3954票である。

質問紙の問16は、「下欄に女性の生き方のタイプがいくつか示してあります。「女性の方へ」(1)あなたの理想とする人生はどのタイプですか。(2)理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。」という説明文のあと、1.結婚せず、仕事を一生続ける、2.結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける、3.結婚し子どもを持つが仕事も一生続ける、4.結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後にふたたび仕事を持つ、5.結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない6.その他、の選択肢から、(1)理想とする人生、(2)実際になりそうな人生を選ぶようになっている。

本稿では、このうち、「(2)実際になりそうな人生」(予想ライフコース)についての回答に

ついて、どのような要因によってどのように規定されるのかを明らかにする。

ワーク・ライフ・バランスについては、問 18k「仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある」かについて、「あてはまる」か「どちらかといえばあてあまる」をワーク・ライフ・バランスが取れていない場合とし、「どちらかといえばあてはまらない」か「あてはまらない」をワーク・ライフ・バランスが取れている場合とした。

3.1. 理想のライフコースと予想ライフコース

理想のライフコースが予想ライフコースにどのように影響するのかをクロス表により検討した(表 1)。理想のライフコースが非婚と「結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける」(以下、DINKS)の場合、予想ライフコースは非婚となる場合が 47.7%、37.4%と高い。理想が両立の場合、予想ライフコースが両立の割合は 27.7%とほかに比べて高い。理想が再就職の場合、予想が専業主婦の割合が 26.6%とほかに比べて高い。理想が専業主婦の場合、予想が再就職の割合が 56.6%とほかに比べて高い。

3.2. 学歴と予想ライフコース

学歴(中・高卒、専修・短大卒、大卒)が予想ライフコースにどのように影響するのかをクロス表により検討した(表 2)。どの学歴でも再就職を予想する割合がもっとも高いが、その割合は大卒の 37.7%から専修・短大卒の 46.8%まで 10%近い差がみられる。学歴別にみると、大卒で両立を予想する者の割合が 2 割を超えて高く、逆に再就職を予想する者の割合が 4 割を切っていて低い。

表1 理想ライフコースと予想ライフコース

		予想ライフコース					計
		非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
理想 ライフ コース	非婚	113	33	31	37	23	237
	%	47.7	13.9	13.1	15.6	9.7	100.0
	DINKS	77	33	29	46	21	206
	%	37.4	16.0	14.1	22.3	10.2	100.0
	両立	144	39	299	482	115	1079
	%	13.3	3.6	27.7	44.7	10.7	100.0
	再就職	148	40	171	610	351	1320
	%	11.2	3.0	13.0	46.2	26.6	100.0
	専業主婦	92	14	108	483	156	853
	%	10.8	1.6	12.7	56.6	18.3	100.0
計	574	159	638	1658	666	3695	
%	15.5	4.3	17.3	44.9	18.0	100.0	

Cramer's V=0.430

df=16

p<.01

表2 学歴と予想ライフコース

	予想ライフコース					計
	非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
中・高卒	251	61	229	646	232	1419
%	17.7	4.3	16.1	45.5	16.3	100.0
学歴 専修・短大卒	237	58	230	715	287	1527
%	15.5	3.8	15.1	46.8	18.8	100.0
大卒	118	45	192	311	158	824
%	14.3	5.5	23.3	37.7	19.2	100.0
計	606	164	651	1672	677	3770
%	16.1	4.4	17.3	44.4	18.0	100.0

Cramer's V=0.077

df=8

p<.01

表3 従業上の地位と予想ライフコース

	予想ライフコース					計
	非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
従業上の地位 正社員	355	74	352	980	347	2108
%	16.8	3.5	16.7	46.5	16.5	100.0
パート・アルバイト	95	31	82	256	101	565
%	16.8	5.5	14.5	45.3	17.9	100.0
自営業	43	8	28	31	9	119
%	36.1	6.7	23.5	26.1	7.6	100.0
計	493	113	462	1267	457	2792
%	17.7	4.0	16.5	45.4	16.4	100.0

Cramer's V=0.097

df=8

p<.01

表4 職種と予想ライフコース

	予想ライフコース					計
	非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
職種 専門・管理職	143	31	153	267	84	678
%	21.1	4.6	22.6	39.4	12.4	100.0
事務職	179	32	155	497	209	1072
%	16.7	3.0	14.5	46.4	19.5	100.0
販売・サービス職	133	41	109	375	127	785
%	16.9	5.2	13.9	47.8	16.2	100.0
現場労働職	32	6	28	94	26	186
%	17.2	3.2	15.1	50.5	14.0	100.0
計	487	110	445	1233	446	2721
%	17.9	4.0	16.4	45.3	16.4	100.0

Cramer's V=0.082

df=12

p<.01

表5 勤務先セクターと予想ライフコース

	予想ライフコース					計
	非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
ク私的	441	101	395	1193	423	2553
タ務%	17.3	4.0	15.5	46.7	16.6	100.0
先公的	38	11	54	34	16	153
セ%	24.8	7.2	35.3	22.2	10.5	100.0
計	479	112	449	1227	439	2706
%	17.7	4.1	16.6	45.3	16.2	100.0

Cramer's V=0.155

df=4

p<.01

表6 父親の職種と予想ライフコース

	予想ライフコース					計
	非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
農林漁業・自営業	86	19	66	194	73	438
%	19.6	4.3	15.1	44.3	16.7	100.0
専門職	99	34	130	285	124	672
%	14.7	5.1	19.3	42.4	18.5	100.0
管理職	105	26	121	366	166	784
%	13.4	3.3	15.4	46.7	21.2	100.0
事務職	41	13	44	116	57	271
%	15.1	4.8	16.2	42.8	21.0	100.0
販売サービス職	76	18	106	245	113	558
%	13.6	3.2	19.0	43.9	20.3	100.0
現場労働職	99	29	82	279	74	563
%	17.6	5.2	14.6	49.6	13.1	100.0
計	506	139	549	1485	607	3286
%	15.4	4.2	16.7	45.2	18.5	100.0

Cramer's V=0.057

df=20

p<.05

表7 母親の就業経歴と予想ライフコース

	予想ライフコース					計
	非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
母就業継続	220	63	308	640	213	1444
%	15.2	4.4	21.3	44.3	14.8	100.0
再就職	155	36	187	564	138	1080
%	14.4	3.3	17.3	52.2	12.8	100.0
専業主婦	158	51	110	323	268	910
%	17.4	5.6	12.1	35.5	29.5	100.0
計	533	150	605	1527	619	3434
%	15.5	4.4	17.6	44.5	18.0	100.0

Cramer's V=0.152

df=8

p<.01

表8 ワーク・ライフ・バランスと予想ライフコース

		予想ライフコース					計
		非婚	DINKS	両立	再就職	専業主婦	
パラ ライ ンフ ク ス	取れている	221	56	256	747	255	1535
	%	14.40	3.65	16.68	48.66	16.61	100.00
ス	取れていない	264	56	201	486	185	1192
	%	22.15	4.70	16.86	40.77	15.52	100.00
	計	485	112	457	1233	440	2727
	%	17.79	4.11	16.76	45.21	16.13	100.00

Cramer's V=0.112

df=4

p<.01

3.3. 従業上の地位と予想ライフコース

従業上の地位(正社員、パート・アルバイト、自営業)が予想ライフコースにどのように影響するのかをクロス表により検討した(表3)。正社員とパート・アルバイトの場合、再就職を予想する者が46.5%、45.3%と半数近く、両立を予想する者が16.7%、14.5%と少ない。自営業では非婚を予想する者が36.1%ともっとも多く、両立を予想する者も23.5%と正社員とパート・アルバイトの場合よりも多い。逆に、自営業の場合、再就職を予想する者は26.1%とほかの2つの従業上の地位の場合に比べると少ない。

3.4. 職種と予想ライフコース

予想ライフコースを職種別(専門・管理職、事務職、販売・サービス職、現場労働職)に検討した(表4)。どの職種でも再就職を予想する人の割合がもっとも多いが、その割合は専門・管理職の39.4%から現場労働職の50.5%まで約10%の差が見られる。職種別の傾向をみると、専門・管理職では、ほかの職種に比べると、非婚か両立を予想する人の割合が多く、専業主婦を予想する人が少ない。事務職では専業主婦を予測する人が多い。

3.5. 勤務先セクターと予想ライフコース

予想ライフコースを勤務先のセクター別(公的セクター、私的セクター)に検討した(表5)。公的セクターに勤務している場合、非婚、DINKS、両立を予想する傾向が高く、再就職、専業主婦を予想する割合が低い。

3.6. 父親の職種と予想ライフコース

予想ライフコースを父親の職種別(農林漁業・自営業、専門職、管理職、事務職、販売サービス職、現場労働職)に検討した(表6)。どの場合でも再就職を予想する人の割合がもっとも高い。さらにみると、父親が農林漁業・自営業の場合、非婚を予想する人の割合が19.6%とほかの職種に比べると高い。専門職の場合は両立を予想する人の割合が19.3%と高い。管理職の場合は専業主婦を予想する人の割合が21.2%と高い。現場労働職の場合、専業主婦を予想する人の割合が13.1%と低い。

3.7. 母親の就業経歴と予想ライフコース

予想ライフコースを母親の就業経歴別(就業継続、再就職、専業主婦)に検討した(表 7)。母親が就業継続している場合、就業継続を予想する者の割合が 21.3%とほかの場合に比べて高い。母親が再就職している場合、再就職を予想する者の割合が 52.2%とほかの場合に比べて高い。母親が専業主婦の場合、専業主婦を予想する者の割合が 29.5%とほかの場合に比べて 10%以上高い。

3.8. ワーク・ライフ・バランスと予想ライフコース

ワーク・ライフ・バランスが取れているかいないかの別に予想ライフコースを検討した(表 8)。ワーク・ライフ・バランスが取れていない場合、非婚を予想する者の割合が高い。ワーク・ライフ・バランスが取れている場合、再就職を予測する者の割合が高い。DINKS、両立、専業主婦についてはワーク・ライフ・バランスによる違いは見られなかった。

表9 学歴とワーク・ライフ・バランス

	ワーク・ライフ・バランス		計
	とれている	とれていない	
中・高卒	647	382	1029
%	62.88	37.12	100.00
学専修・短大卒	652	514	1166
歴%	55.92	44.08	100.00
大卒	193	242	435
%	44.37	55.63	100.00
計	1492	1138	2630
%	56.73	43.27	100.00

Cramer's V=0.128

df=2

p<.01

表10 従業上の地位とワーク・ライフ・バランス

	ワーク・ライフ・バランス		計
	とれている	とれていない	
従正社員	1137	942	2079
業%	54.69	45.31	100.00
上パート・アルバイト	304	142	446
の%	68.16	31.84	100.00
地自営業	44	47	91
位%	48.35	51.65	100.00
計	1485	1131	2616
%	56.77	43.23	100.00

Cramer's V=0.107

df=2

p<.01

表11 職種とワーク・ライフ・バランス

	ワーク・ライフ・バランス		計
	とれている	とれていない	
専門・管理職	300	361	661
%	45.39	54.61	100.00
事務職	679	392	1071
職 %	63.40	36.60	100.00
種 販売・サービス職	349	304	653
%	53.45	46.55	100.00
現場労働職	116	52	168
%	69.05	30.95	100.00
計	1444	1109	2553
%	56.56	43.44	100.00

Cramer's V=0.162

df=3

p<.01

表12 勤務先セクターとワーク・ライフ・バランス

		ワーク・ライフ・バランス		計
		とれている	とれていない	
ク勤 タ務 先 セ	私的	1369	1021	2390
	%	57.28	42.72	100.00
	公的	69	82	151
	%	45.70	54.30	100.00
	計	1438	1103	2541
	%	56.59	43.41	100.00

Cramer's V=0.055

df=1

p<.01

表13 父親の職種とワーク・ライフ・バランス

		ワーク・ライフ・バランス		計
		とれている	とれていない	
父 親 の 職 種	農林漁業・自営業	182	148	330
	%	55.15	44.85	100.00
	専門職	237	202	439
	%	53.99	46.01	100.00
	管理職	318	228	546
	%	58.24	41.76	100.00
	事務職	107	78	185
	%	57.84	42.16	100.00
	販売サービス職	218	175	393
	%	55.47	44.53	100.00
現場労働職	254	183	437	
%	58.12	41.88	100.00	
	計	1316	1014	2330
	%	56.48	43.52	100.00

Cramer's V=0.035

df=5

p=0.728

表14 母親の就業経歴とワーク・ライフ・バランス

		ワーク・ライフ・バランス		計
		とれている	とれていない	
母親の就業経歴	就業継続	541	456	997
	%	54.26	45.74	100.00
再就職		457	314	771
	%	59.27	40.73	100.00
専業主婦		345	273	618
	%	55.83	44.17	100.00
計		1343	1043	2386
%		56.29	43.71	100.00

Cramer's V=0.043

df=2

p=0.105

3.9. 学歴とワーク・ライフ・バランス

学歴別にワーク・ライフ・バランスを検討した(表 9)。中・高卒ではワーク・ライフ・バランスが取れている人が 6 割を超えているが、就学年数が長くなるにつれてワーク・ライフ・バランスが取れていない人の割合が高くなる。

3.10. 従業上の地位とワーク・ライフ・バランス

従業上の地位別にワーク・ライフ・バランスを検討した(表 10)。パート・アルバイトでは約 7 割がワーク・ライフ・バランスが取れている。自営業ではバランスが取れている人の割合は 5 割をやや切る。正社員はその中間で約 55%がバランスが取れている。

3.11. 職種とワーク・ライフ・バランス

職種別にワーク・ライフ・バランスを検討した(表 11)。現場労働職では約 7 割がワーク・ライフ・バランスが取れている。ついで事務職では 6 割強の人がワーク・ライフ・バランスが取れている。販売・サービス職では 5 割強の人がワーク・ライフ・バランスが取れている。専門・管理職ではワーク・ライフ・バランスが取れている人は半数を切っている。

3.12. 勤務先セクターとワーク・ライフ・バランス

勤務先セクター別にワーク・ライフ・バランスを検討した(表 12)。私的セクターで働く人の 6 割近くがワーク・ライフ・バランスが取れている。公的セクターで働く人ではワーク・ライフ・バランスが取れている人の割合は 5 割を切る。

3.13. 父親の職種とワーク・ライフ・バランス

父親の職種とワーク・ライフ・バランスのあいだには有意な傾向がみられない(表 13)。

3.14. 母親の就業経歴とワーク・ライフ・バランス

母親の就業経歴とワーク・ライフ・バランスのあいだには有意な傾向がみられない(表 14)。

4. 分析

4.1. 予想ライフコースの規定因

ここまで取り上げてきた8つの変数 - 理想のライフコース、学歴、従業上の地位、職種、セクター、父親の職種、母親の就業経歴、ワーク・ライフ・バランス - を独立変数とし、予想ライフコースを従属変数とする多項ロジスティック回帰分析をおこない、予想ライフコースの規定因を検討した。8つの変数に加えて年齢も投入した。なお、年齢については、29歳以下か30歳以上かというカテゴリー変数も作成して分析に投入した。

分析の結果は以下のとおりである(表 15)。

年齢については、非婚、DINKS で符号がプラス、専業主婦で符号がマイナスで有意である。

理想のライフコースが非婚の場合、予想ライフコースは非婚や DINKS で符号がプラスで有意である。理想のライフコースが DINKS の場合、予想ライフコースは非婚、DINKS、両立で符号がプラスで有意である。理想のライフコースが両立の場合、予想ライフコースは非婚、DINKS、両立で符号がプラスで有意である。理想のライフコースが再就職の場合、予想ライフコースは非婚や DINKS で符号がプラスで有意である。

学歴には特定の効果がみられない。

従業上の地位が正社員やパート・アルバイトの場合、予想ライフコースは両立で符号がマイナスで有意である。

職種が専門職の場合、予想ライフコースは両立で符号がプラスで有意である。

勤務先セクターが私的セクターの場合、予想ライフコースは DINKS と両立で符号がマイナスで有意である。

父親の職業が専門職と管理職の場合、予想ライフコースは DINKS で符号がマイナスで有意である。

ワーク・ライフ・バランスが取れているとき、予想ライフコースは非婚で符号がマイナスで有意である。

4.2. 予想ライフコース・両立の規定因

つぎに、理想のライフコースが両立の人だけを取り出して、予想ライフコースが両立かそれ以外かを規定する要因について、ロジスティック回帰分析をおこなった(表 16)。従属変数は、1が両立、0がそれ以外である。

従業上の地位が正社員の場合、両立を志向しない傾向にある。

勤務先セクターが私的セクターの場合、両立を志向しない傾向にある。

ワーク・ライフ・バランスが取れている場合、両立を予想する傾向にある。

4.3. 予想ライフコース・非婚の規定因

つぎに、理想のライフコースが結婚意志あり(DINKS、両立、再就職、専業主婦)の人だけを取り出して、予想ライフコースが非婚かそれ以外かを規定する要因について、ロジスティック回帰分析をおこなった(表 17)。従属変数は1が非婚、0がそれ以外である。

年齢が高くなると、非婚を予想する傾向にある。

ワーク・ライフ・バランスが取れているとき、非婚を予想しない傾向にある。

4.4. 予想ライフコース・子ども無しの規定因

つぎに、理想のライフコースが子どもあり(両立、再就職、専業主婦)の人だけを取り出して、予想ライフコースが子どもありか子ども無しかを規定する要因について、ロジスティック回帰分析をおこなった(表 18)。従属変数は1が子ども無しで0が子どもありである。

年齢が上がると、子ども無しを予想する傾向にある。

父親の職業が管理職のとき、子ども無しを予想しない傾向にある。

ワーク・ライフ・バランスが取れているとき、子ども無しを予想しない傾向にある。

表15 予想ライフコースへの多項ロジスティック回帰分析

	非婚				DINKS				両立				専業主婦		
	B	標準誤差	有意確率	Exp (B)	B	標準誤差	有意確率	Exp (B)	B	標準誤差	有意確率	Exp (B)	B	標準誤差	有意確率
切片	-6.58	1.25	0.00		1.88	0.00			1.15	0.29			0.81	1.25	0.51
年齢	0.21	0.03	0.00	1.23	0.04	0.00	1.19	0.98	0.03	0.49	0.03	0.98	-0.06	0.03	0.03
年齢29歳以下	-0.04	0.31	0.88	0.96	-0.21	0.48	0.81	-0.53	0.31	0.09	0.59	0.32	-0.45	0.32	0.16
年齢30歳以上	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
理想のライフコース・非婚	3.31	0.41	0.00	27.46	4.25	0.63	69.77	0.86	0.50	0.09	2.37	0.44	0.52	0.52	0.40
理想のライフコース・DINKS	2.15	0.37	0.00	8.56	2.76	0.64	15.80	0.89	0.38	0.02	2.43	0.48	0.41	0.41	0.24
理想のライフコース・両立	0.61	0.26	0.02	1.84	1.53	0.53	4.63	0.60	0.20	0.00	1.82	-0.14	0.21	0.21	0.52
理想のライフコース・再就職	0.75	0.24	0.00	2.13	1.54	0.52	4.67	0.25	0.20	0.20	1.29	0.74	0.17	0.17	0.00
理想のライフコース・専業主婦	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
学歴・中・高卒	0.22	0.27	0.40	1.25	-0.42	0.44	0.66	0.15	0.23	0.51	1.17	-0.08	0.23	0.23	0.74
学歴・高・専修卒	0.09	0.24	0.71	1.09	-0.19	0.36	0.83	-0.10	0.21	0.82	0.90	-0.01	0.20	0.20	0.94
学歴・大卒	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
従業上の地位・正社員	-0.02	0.51	0.97	0.98	0.66	0.86	1.94	-0.97	0.42	0.02	0.38	0.35	0.66	0.66	0.59
従業上の地位・パート・アルバイト	0.26	0.54	0.63	1.30	1.16	0.89	3.20	-1.21	0.46	0.01	0.30	0.63	0.67	0.67	0.35
従業上の地位・自営業	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
職種・専門・管理職	-0.08	0.40	0.85	0.93	-0.22	0.64	0.80	0.74	0.35	0.03	2.10	-0.14	0.32	0.32	0.67
職種・事務職	0.02	0.38	0.95	1.03	-0.83	0.62	0.44	0.26	0.34	0.43	1.30	0.30	0.29	0.29	0.29
職種・販売・サービス職	-0.40	0.39	0.31	0.67	0.03	0.60	1.03	0.09	0.35	0.80	1.09	-0.06	0.30	0.30	0.84
職種・現場労働職	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
セクター・私的	-0.70	0.37	0.06	0.49	-1.25	0.49	0.29	-1.63	0.29	0.00	0.20	-0.42	0.40	0.40	0.30
セクター・公的	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
父親の職業・農林漁業・自営業	-0.06	0.29	0.84	0.94	-0.80	0.47	0.45	0.01	0.26	0.98	1.01	0.35	0.26	0.26	0.17
父親の職業・専門職	-0.05	0.27	0.86	0.95	-0.90	0.43	0.41	0.37	0.23	0.11	1.45	0.49	0.23	0.23	0.04
父親の職業・管理職	-0.44	0.27	0.10	0.64	-1.26	0.43	0.28	0.16	0.23	0.49	1.17	0.35	0.23	0.23	0.12
父親の職業・事務職	-0.47	0.38	0.21	0.62	-0.52	0.50	0.60	0.02	0.33	0.96	1.02	0.55	0.29	0.29	0.06
父親の職業・販売・サービス職	0.09	0.28	0.76	1.09	-0.76	0.45	0.47	0.17	0.24	0.50	1.18	0.49	0.24	0.24	0.04
父親の職業・現場労働職	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
母親の職業・継続就業	-0.25	0.22	0.26	0.78	-0.53	0.33	0.59	0.25	0.20	0.22	1.28	-0.92	0.17	0.17	0.00
母親の職業・再就職	-0.16	0.23	0.48	0.85	-0.69	0.36	0.50	0.03	0.21	0.87	1.03	-1.17	0.17	0.17	0.00
母親の職業・専業主婦	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		
ワークライフバランス・取れている	-0.60	0.18	0.00	0.55	-0.39	0.28	0.68	0.14	0.15	0.36	1.15	-0.07	0.14	0.14	0.60
ワークライフバランス・取れていない	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		

-2対数尤度=4018.20、X²=781.06、df=88、p<.001

表16 予想ライフコース・両立の規定因(理想のライフコースが両立の人のみ)

	B	標準誤差	有意確率	Exp (B)
切片	2.28	1.76	0.20	
年齢	-0.05	0.04	0.20	0.95
年齢29歳以下	0.34	0.50	0.49	1.40
年齢30歳以上	0.00			
学歴・中・高卒	-0.45	0.36	0.22	0.64
学歴・高・専修卒	-0.41	0.29	0.16	0.66
学歴・大卒	0.00			
従業上の地位・正社員	-1.19	0.60	0.05	0.30
従業上の地位・パート・アルバイト	-1.23	0.67	0.07	0.29
従業上の地位・自営業	0.00			
職種・専門・管理職	-0.01	0.62	0.99	0.99
職種・事務職	-0.50	0.58	0.39	0.60
職種・販売・サービス職	-0.90	0.64	0.16	0.41
職種・現場労働職	0.00			
セクター・私的	-1.50	0.35	0.00	0.22
セクター・公的	0.00			
父親の職業・農林漁業・自営業	-0.23	0.46	0.61	0.79
父親の職業・専門職	0.17	0.39	0.67	1.18
父親の職業・管理職	0.35	0.37	0.34	1.42
父親の職業・事務職	-0.32	0.57	0.58	0.73
父親の職業・販売・サービス職	0.27	0.42	0.53	1.31
父親の職業・現場労働職	0.00			
母親の職歴・継続就業	0.20	0.32	0.53	1.22
母親の職歴・再就職	-0.15	0.34	0.66	0.86
母親の職歴・専業主婦	0.00			
ワークライフバランス・取れている	1.00	0.25	0.00	2.73
ワークライフバランス・取れていない	0.00			

-2対数尤度=452.44、 $\chi^2=63.23$ 、 $df=18$ 、 $p<.001$

表17 予想ライフコース非婚の規定因(理想ライフコースが非婚以外の人のみ)

	B	標準誤差	有意確率	Exp (B)
切片	-6.40	1.09	0.00	
年齢	0.18	0.02	0.00	1.19
年齢29歳以下	-0.19	0.28	0.49	0.82
年齢30歳以上	0			
学歴・中・高卒	0.10	0.26	0.70	1.10
学歴・高・専修卒	0.05	0.23	0.82	1.05
学歴・大卒	0			
従業上の地位・正社員	-0.20	0.46	0.67	0.82
従業上の地位・パート・アルバイト	0.21	0.50	0.67	1.24
従業上の地位・自営業	0			
職種・専門・管理職	-0.15	0.40	0.70	0.86
職種・事務職	-0.01	0.37	0.97	0.99
職種・販売・サービス職	-0.50	0.39	0.20	0.61
職種・現場労働職	0			
セクター・私的	0.15	0.34	0.65	1.17
セクター・公的	0			
父親の職業・農林漁業・自営業	0.07	0.28	0.80	1.07
父親の職業・専門職	-0.08	0.26	0.77	0.93
父親の職業・管理職	-0.39	0.27	0.15	0.68
父親の職業・事務職	-0.45	0.38	0.23	0.64
父親の職業・販売・サービス職	0.04	0.28	0.89	1.04
父親の職業・現場労働職	0			
母親の職歴・継続就業	-0.02	0.22	0.92	0.98
母親の職歴・再就職	0.39	0.22	0.08	1.48
母親の職歴・専業主婦	0.00			
ワークライフバランス・取れている	-0.63	0.17	0.00	0.53
ワークライフバランス・取れていない	0			

-2対数尤度=983.46、 $\chi^2=298.92$ 、df=18、 $p<.001$

表18 予想ライフコース子どもなしの規定因(理想ライフコース子どもありのみ)

	B	標準誤差	有意確率	Exp (B)
切片	-7.50	1.18	0.00	
年齢	0.22	0.02	0.00	1.24
年齢29歳以下	0.10	0.29	0.72	1.11
年齢30歳以上	0			
学歴・中・高卒	-0.02	0.26	0.95	0.98
学歴・高・専修卒	0.02	0.22	0.92	1.02
学歴・大卒	0			
従業上の地位・正社員	0.28	0.51	0.58	1.32
従業上の地位・パート・アルバイト	0.73	0.54	0.17	2.08
従業上の地位・自営業	0			
職種・専門・管理職	0.01	0.41	0.99	1.01
職種・事務職	-0.02	0.38	0.95	0.98
職種・販売・サービス職	-0.18	0.40	0.66	0.84
職種・現場労働職	0			
セクター・私的	-0.10	0.32	0.76	0.91
セクター・公的	0			
父親の職業・農林漁業・自営業	-0.34	0.28	0.23	0.71
父親の職業・専門職	-0.43	0.26	0.11	0.65
父親の職業・管理職	-0.67	0.26	0.01	0.51
父親の職業・事務職	-0.37	0.35	0.30	0.69
父親の職業・販売・サービス職	-0.30	0.27	0.28	0.74
父親の職業・現場労働職	0			
母親の職歴・継続就業	-0.06	0.21	0.78	0.94
母親の職歴・再就職	0.17	0.22	0.43	1.19
母親の職歴・専業主婦	0.00			
ワークライフバランス・取れている	-0.68	0.17	0.00	0.51
ワークライフバランス・取れていない	0			

-2対数尤度=976.93、 $\chi^2=323.39$ 、df=18、 $p<.001$

5. 政策的含意

本稿では未婚女性の予想ライフコースの規定因を検討した。多項ロジスティック回帰分析の結果、就業状況が予想ライフコースを規定していることが明らかになった。具体的には、ワーク・ライフ・バランスや勤務先セクターが影響している。

まず注目されるのは、ワーク・ライフ・バランスの影響である。ワーク・ライフ・バランスが取れていないとき、非婚を予想する確率を高めるという傾向が見られた。ワーク・ライフ・バランスは結婚意志に影響する。

また、理想のライフコースと異なる予想ライフコースを持つ場合について、どのような要因が影響しているのかを検討したところ、ここでもワーク・ライフ・バランスが影響していた。具体的には、(1)理想のライフコースは両立なのに、予想ライフコースが両立以外の場合、(2)理想では結婚意志があるのに、予想ライフコースが非婚となる場合、(3)理想では子どもを持ちたいのに予想ライフコースが子ども無しになる場合、を検討した。結果として、両立が理想の場合、ワーク・ライフ・バランスが取れていれば、両立を予想する傾向が見られた。ワーク・ライフ・バランスが取れているとき、非婚を予想しない傾向が見られた。さらに、ワーク・ライフ・バランスが取れているとき、子どもを持つことを予想する傾向が見られた。

ここから明らかになったことは、ワーク・ライフ・バランスのありようが個人の結婚・出生・両立意志に影響しているということである。本来、個人の選好であるべきところの結婚意志、仕事と家庭の両立意志、子どもを持つか持たないかの意志が、ワーク・ライフ・バランスという仕事環境によって規定されている。仕事のために私生活が犠牲になるというワーク・ライフ・バランスが取れていない状態は、結婚、出産、両立を予想しにくくさせる。ワーク・ライフ・バランスの取れる働き方を保障する仕組みを整える必要がある。たとえば近年導入が検討されているホワイトカラー・エグゼンプションもこの点に十分配慮したものであるべきである。

また、勤務先セクターも予想ライフコースに影響を与えていた。勤務先セクターが公的セクターであることはDINKSと両立を予想する確率を高める。公的セクターは相対的に仕事と家庭の両立を図りやすい就業環境であると指摘されることが多いが、結婚しても子どもを持たないライフコースを予想する確率も高めている。この点は従来あまり指摘されていない。今後その要因を検討することも必要であろう。

引用文献

岩澤美帆(1999)「だれが「両立」を断念しているのかー未婚女性によるライフコース予測の分析ー」『人口問題研究』55-4, 16-37.

釜野さおり(2004)「専業主婦という生き方の捉え方ー未婚女性の理想と予想のライフコースー」『人口問題研究』60-2, 1-18.

ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議(2007)『「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章(案)」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針(案)」』(http://www8.cao.go.jp/shoushi/w-l-b/k_2/pdf/s1.pdf 2007年12月23日閲覧).

第4章 有配偶女性の就業行動の変化と出産の機会費用：1992～2002年

守泉 理恵

プロジェクト第1、第2年度において、賃金統計（賃金構造基本統計調査）を用いてマクロの結婚・出産の時点機会費用の推計を行った。その中で、2000～2004年の年次比較として、国民一人当たりの時点機会費用額を試算したが、有配偶女性の就業率自体は上昇しているため、少しずつマクロの機会費用は軽減されてきている結果が示された。

しかし、仕事と家庭の両立が依然困難な中、女性の就業率の上昇は未婚化・晩婚化、晩産化を伴うものとなっている。そこで、今年度は、1992年、1997年、2002年の就業構造基本調査の個票データを用いて、3時点でのさまざまなクロス集計により、有配偶女性の就業率上昇の中身をより詳細に探ることとした。さらに、マイクロデータを用いた出産の機会費用推計も試みる。これは、多変量解析により「標準的な」有配偶女性の年齢別就業経歴を作成し、それに基づいて出産の機会費用を計算するというものである。無子女性に比べて有子女性の生涯所得がどのくらい減少するか推計することで、子どもを持つコストを詳細に分析することができる。

なお、本研究は、一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センターで提供している就業構造基本調査（1992年、1997年、2002年）の秘匿処理済マイクロデータを用いて行った。

1. 先行研究

マイクロデータを用いて女性の出産の機会費用を推定する研究は、国内外で先行研究がある。とくに Hether Joshi はこの分野で一連の研究成果を発表しており、本論文では Joshi (1990) の提示した機会費用の推計方法を参考にして試算を行う。

Joshi (1990) は、1980年にイギリスで行われた「女性と雇用に関する調査 (Women and Employment Survey)」のデータを用い、就業関数、賃金関数の推定結果を用いて「標準的な有配偶女性」の就業経歴と生涯所得を求め、子ども数・出産年齢別に機会費用を計算した。Joshi が就業関数の推定結果を用いて年齢別に就業の有無・就業形態を判定したところ、子ども2人の女性の場合、出産まではフルタイム就業し、出産後はしばらく就業中断したあと、最初はパート就業で労働市場に戻り、徐々に労働時間を増やしてフルタイムに復帰し、50歳代に入ると再びパート就業に戻って60歳での引退を迎える、という標準的な就業経歴が抽出された。これにより、2人の子どもを持つ女性の生涯所得は、無子で17～59歳までフルタイム就業を続ける女性に比べて、その6割程度へ減少するという結果を示している。所得の逸失は、おもに出産後の就業中断、子どもが小さいうちのパートタイム就業、フルタイムに戻った際の就業継続年数が短いことによる低賃金によって発生し、また、子ども数だけでなく、出産年齢や出産間隔によっても逸失所得は変動することを指摘した。

Joshi はその後もこの方法を用いてさらに研究を進め、2時点（1980、1994年）での機会費用の比較や、カップルの教育水準別に妻の機会費用を推定・比較する研究も行ってい

る (Davies, Joshi and Peronaci 2000)。

日本を対象とした先行研究では、フランスと日本の個票データを用いて国際比較を行った Nishimura (2000)、日本・アメリカ・フランス・スウェーデン・西ドイツ・イギリスの 6 カ国について国際比較を行った井口・西村 (2002) がある。

井口・西村 (2002) では、日本女性の機会費用は諸外国に比べて高額であることが示されている。子ども 1 人だと、日本では 6,361 万円なのに対し、アメリカは 639 万円、フランスは 313 万円、スウェーデンは 791 万円、西ドイツは 3,328 万円、イギリス 5,092 万円であった。日本では、無子の女性に比べ所得の逸失率は 70%以上になる。また、日本の機会費用が諸外国に比べて大きい原因としては、結婚・出産で仕事を中断した後、再就職するまでの期間が長いこと、再就職時の主な就業形態がパート労働であること、税制における所得制限(配偶者控除等)のため労働供給を抑制する傾向があることの 3 点を指摘した。

上述のように、日本では国際比較を行った先行研究があり、貴重な知見を提示している。日本では諸外国に比べて子どもを持つことの機会費用が高いことが分かっているが、では時系列でその値は変わってきているだろうか？本研究では、1992、1997、2002 年の就業構造基本調査のデータを用い、3 時点での有配偶女性の就業構造の変化、および子どもを持つことの機会費用の変化を探る。

2. データ

今回使用するののは、平成 4 (1992) 年、平成 9 (1997) 年、平成 14 (2002) 年の就業構造基本調査のデータである。本稿で使用したデータは、全体から約 8 割のデータを無作為抽出して貸し出し提供されたものである。

本研究では、有配偶女性の働き方と子ども数に注目しているため、この観点から適切なサンプルを特定することが必要となる。しかし、就業構造基本調査は、働き方については充実したデータを内包しているが、子どもに関する情報が乏しい。例えば、子ども数については「同居している子ども」の数しか分からず、子どもの年齢については末子しか分からない。また、世帯に複数の成人女性がいる場合、同世帯にいる子どもが誰の子どもであるかも不明である。そこで、本研究の目的にあわせるために、使用するサンプルは「女性、年齢 20~44 歳、卒業者、世帯類型が「夫婦のみ」か「夫婦と子ども」、続き柄が世帯主の配偶者」にすべて合致するものに限定した。これにより、該当女性サンプルの「子ども数」をその女性の現存子ども数とみなし分析を進めた。

このサンプル限定条件の妥当性を検証するため、同年に行われた出生動向基本調査 (第 10 回、11 回、12 回) の妻の年齢別現存子ども数分布と、就業構造基本調査の妻の年齢別子ども数分布を比較した (章末の付表参照)。就業構造基本調査の子ども数は「現在世帯にいる、同居している子ども数」であるため、世帯外に出ている子どもがいるとカウントされない。よって、就業構造基本調査では、女性の年齢が上がるほど進学や就職で世帯を出ている年長の子どもがいる可能性が高まり、子ども数が少なく記録されることになる。付表を見ると、妻の年齢が上がるほど、就業構造基本調査で出生動向基本調査の集計より無子割合が高く出ており、このデータ上の問題点が表れていることが分かる。とくに 40 歳代では無子割合が高い。しかし、機会費用の試算で就業経歴を算出するという研究上の必

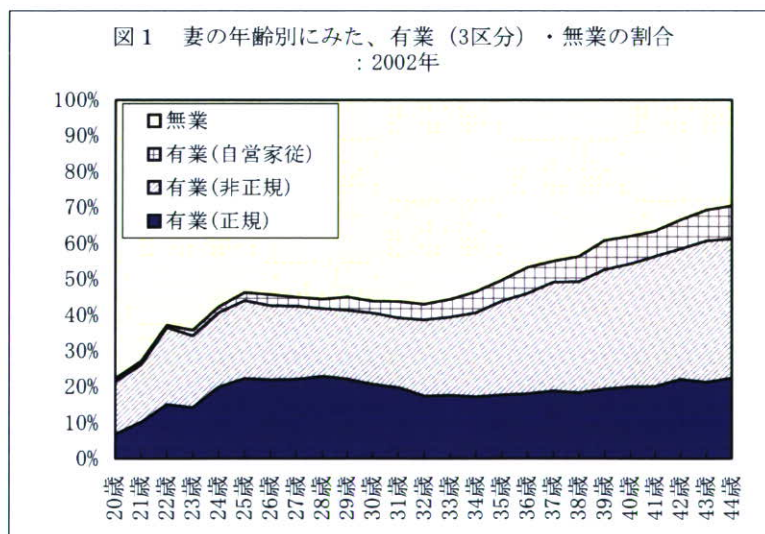
要性も考慮し、本稿では女性の年齢は44歳までを対象とした。

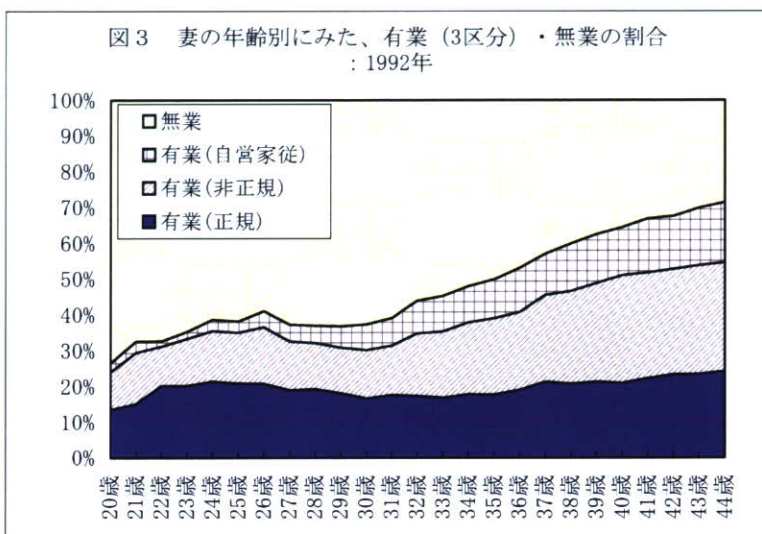
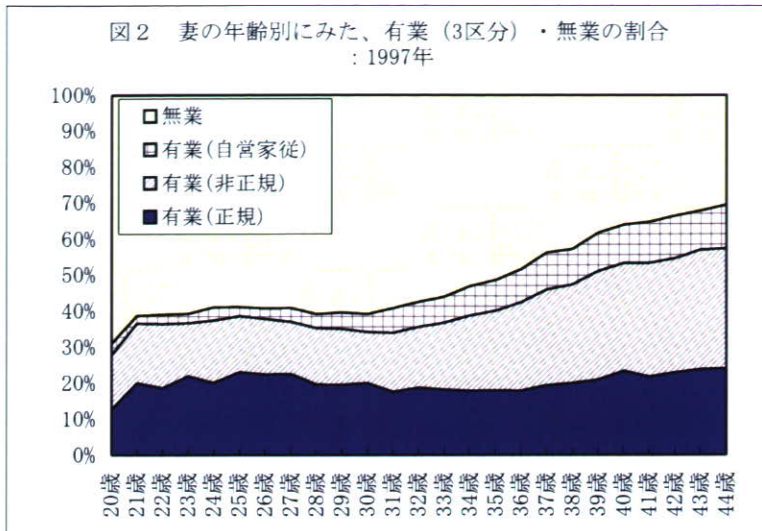
3. 有配偶女性の就業構造の変化：クロス集計結果から

就業構造基本調査のデータを集計して、1992～2002年の有配偶女性の就業変化について観察を行う。まず、妻の年齢別に有業（3区分）・無業の割合を見たのが図1～3である。これによると、1992～2002年の10年間で、有配偶女性の年齢別有業率パターンはほとんど変わっていない。有業者の内訳で見ると、2002年にむかって自営・家従の割合が縮小し、代わってほぼすべての年齢層で非正規就業が増えている。そのため全体の有業者割合がほぼ不変となったことがわかる。

正規就業者割合はほとんど増えておらず、また年齢によっても増減は目立たない。正規就業割合は、どの年齢層でも15～20%程度を占めている。1992～2002年の期間に、有配偶女性の正規就業割合はほとんど変わらなかったといえる。

ただし、20～31歳の若年層については、1992・97年と比べて2002年に変化が起きている。20歳代前半では、1997年時と比べて無業者が増えた。特に20歳、21歳の有配偶女性で増加が著しい。これは、次の子ども有無別集計で詳しく見るが、子どもを持つ無業の妻の増加によるものである。また、20歳代後半～31歳については、2002年に有業者割合が上昇したが、これは大部分が非正規就業者の拡大によるものである。





有業・無業割合のグラフに、さらに子どもの有無の情報を加えて集計した結果が図4～6である。このグラフによると、時系列的にいくつか変化がみられる。一つは、1997年までに比べて、2002年には20歳代前半の有配偶女性で子どものいない無業者が減り、子どものいる無業者が大幅に増えた。これは、若年層での妊娠先行型結婚、いわゆる「できちゃった結婚」の広がりに関連があるとみられる。90年代に妊娠先行型結婚は急増したが、とくに後半はその広がりが加速している (Iwasawa and Raymo 2005)。

また、2002年調査で有業者割合が上昇していた25～31歳層をみると、正規就業・非正規就業の両方で、1992・97年に比べて、2002年には子どものいる有業女性の割合が高まっている。非正規就業では、無子の非正規就業者の割合はあまり変わっていないので、子どものいる有配偶女性の非正規就業が進んだことがうかがえる。正規就業においては、有配偶の正規就業女性全体の割合はあまり変化がないが、その中の構成割合において、有子女女性の割合が高まっている。若年層においては、結婚しても正規就業を続ける女性の中で、子どもを持ったあとも退職しない動きが少しずつ起きているのかもしれない。今後公表されていく2007年調査のデータを同じように集計して比較できれば、この動向が一過性のもなのかそうでないのか判断できるだろう。

図4 妻の年齢・子ども有無別にみた、有業(3区分)・無業の割合：
2002年

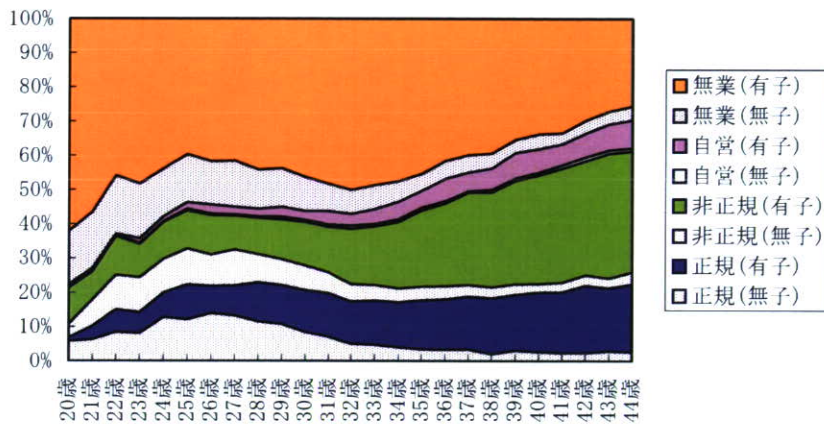


図5 妻の年齢・子ども有無別にみた、有業(3区分)・無業の割合：
1997年

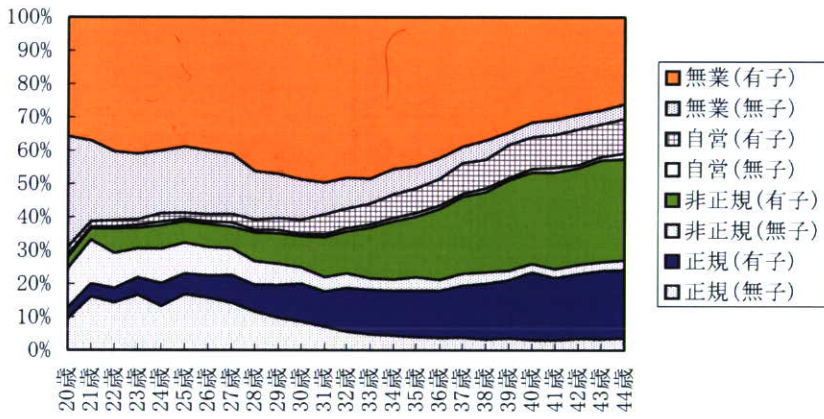
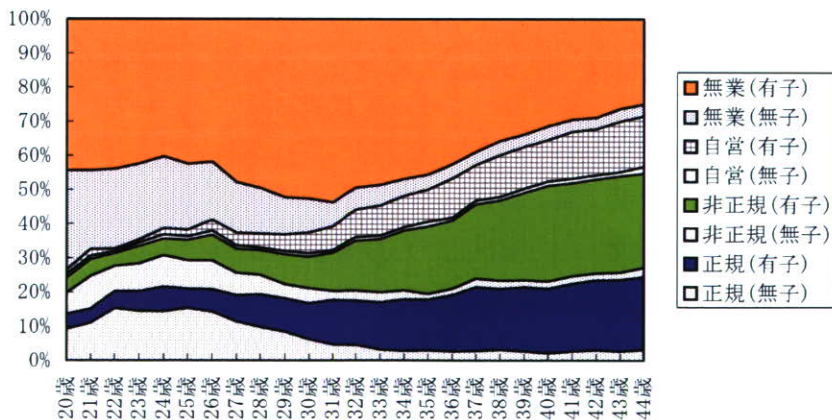


図6 妻の年齢・子ども有無別にみた、有業(3区分)・無業割合：
1992年



次に、子どもの有無および年齢別に有業・無業割合を集計してみると、子どもを持っているか持っていないかによって年齢ごとの就業構造がまったく異なることがわかる。無子女性の場合、20歳代前半以降、有業・無業割合、および有業者の就業形態の構成にあまり